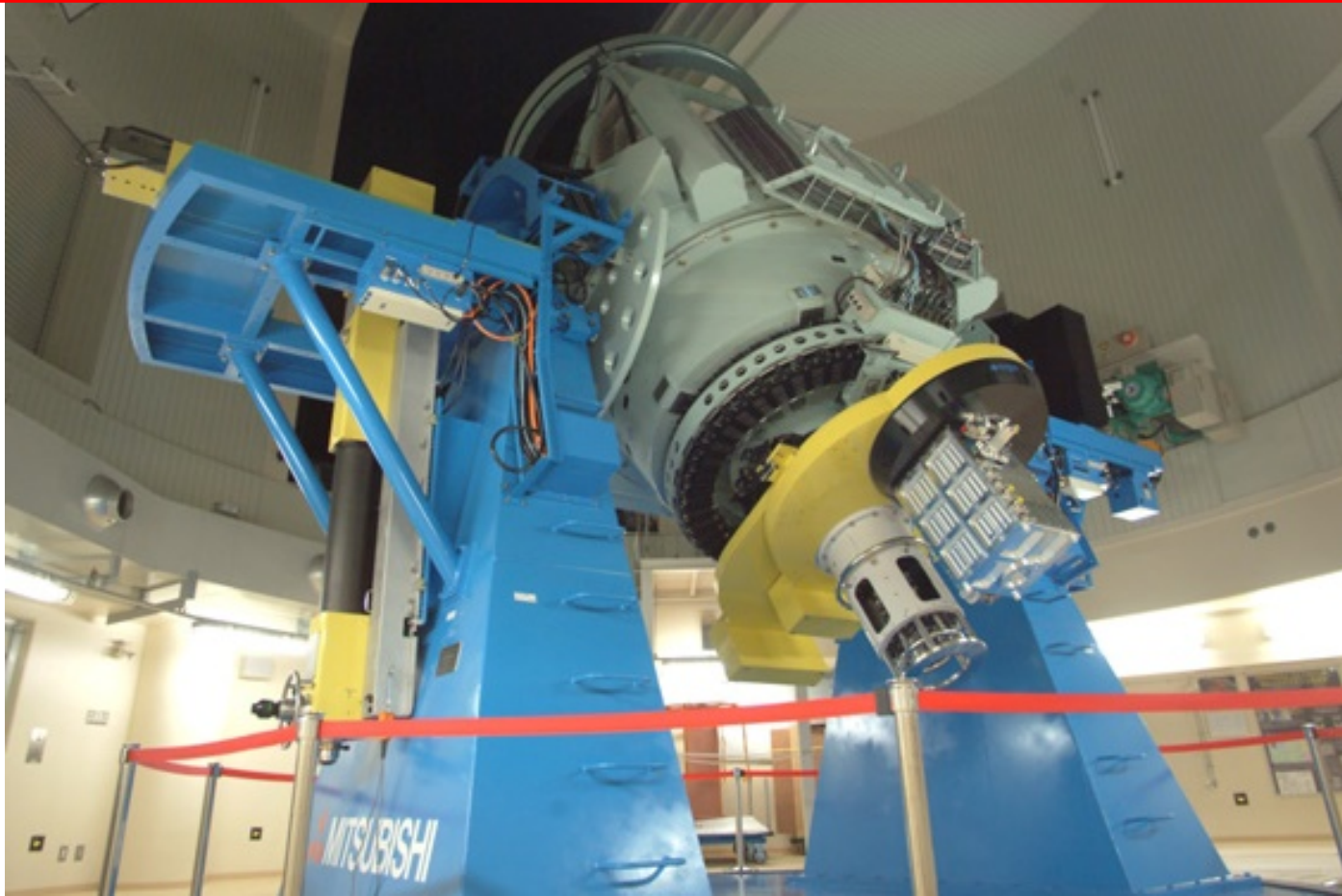


西はりま天文台「なゆた望遠鏡」の運用

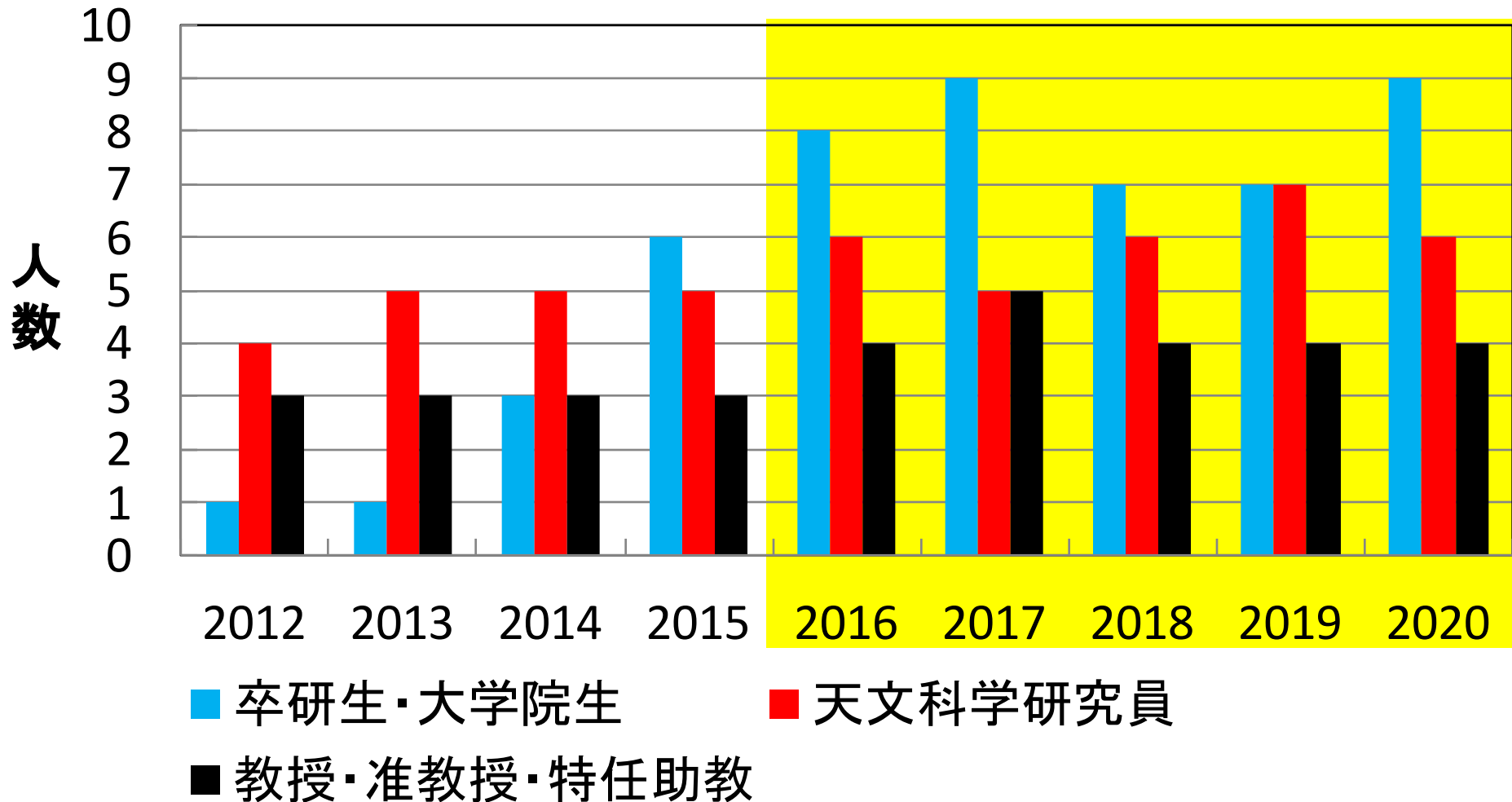


兵庫県立大学 自然・環境科学研究所
天文科学センター 伊藤洋一

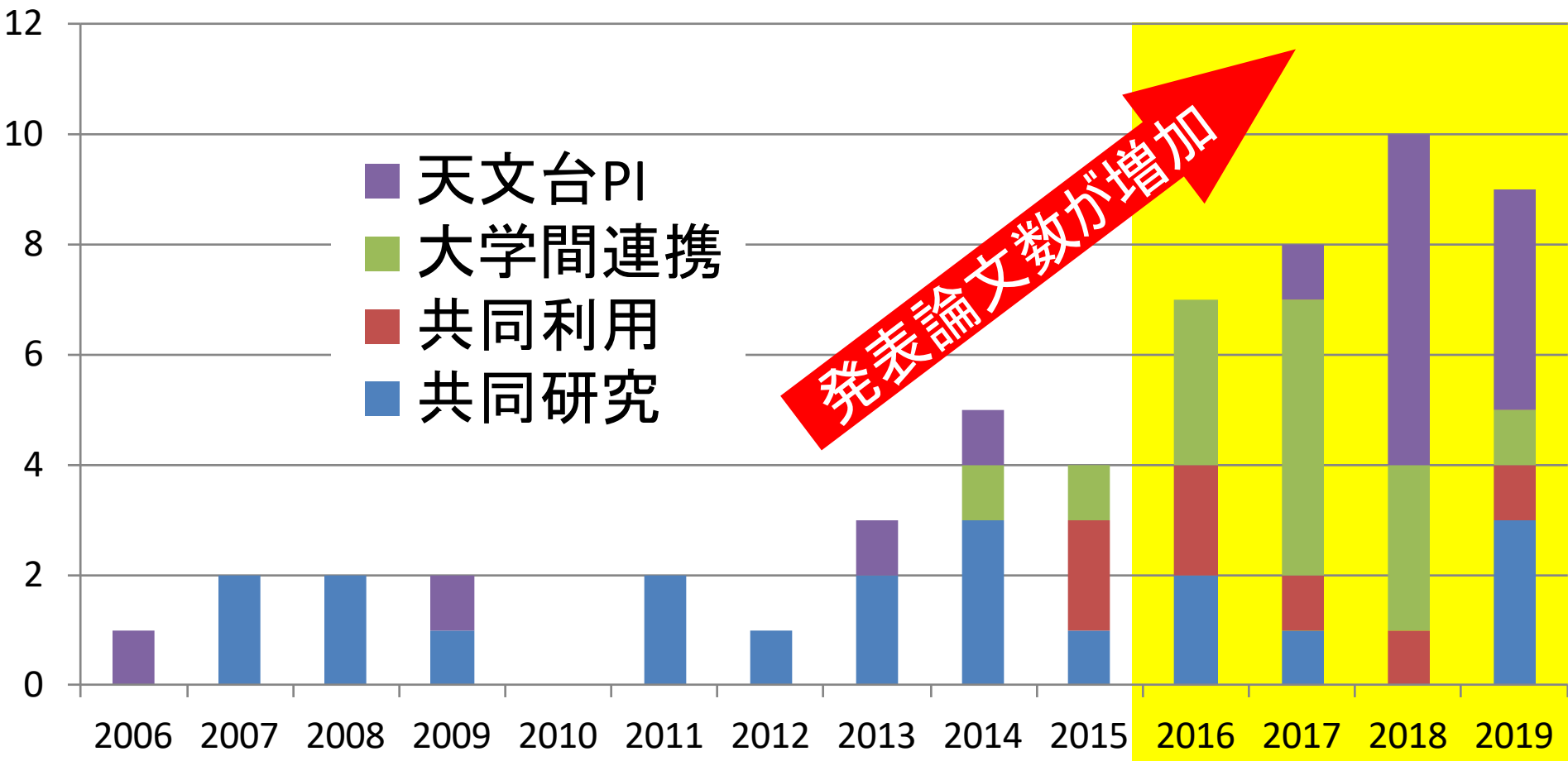


人員

- 兵庫県立大学理学部の協力講座になり、学生数が増加
- 各種外部資金の獲得により研究員も増加



発表論文数



「なゆた望遠鏡」を使用した論文に限る

共同利用拠点の概要

「なゆた望遠鏡」は口径2m

- 光学赤外線望遠鏡として**日本最大級**
- 公開望遠鏡として**世界最大**

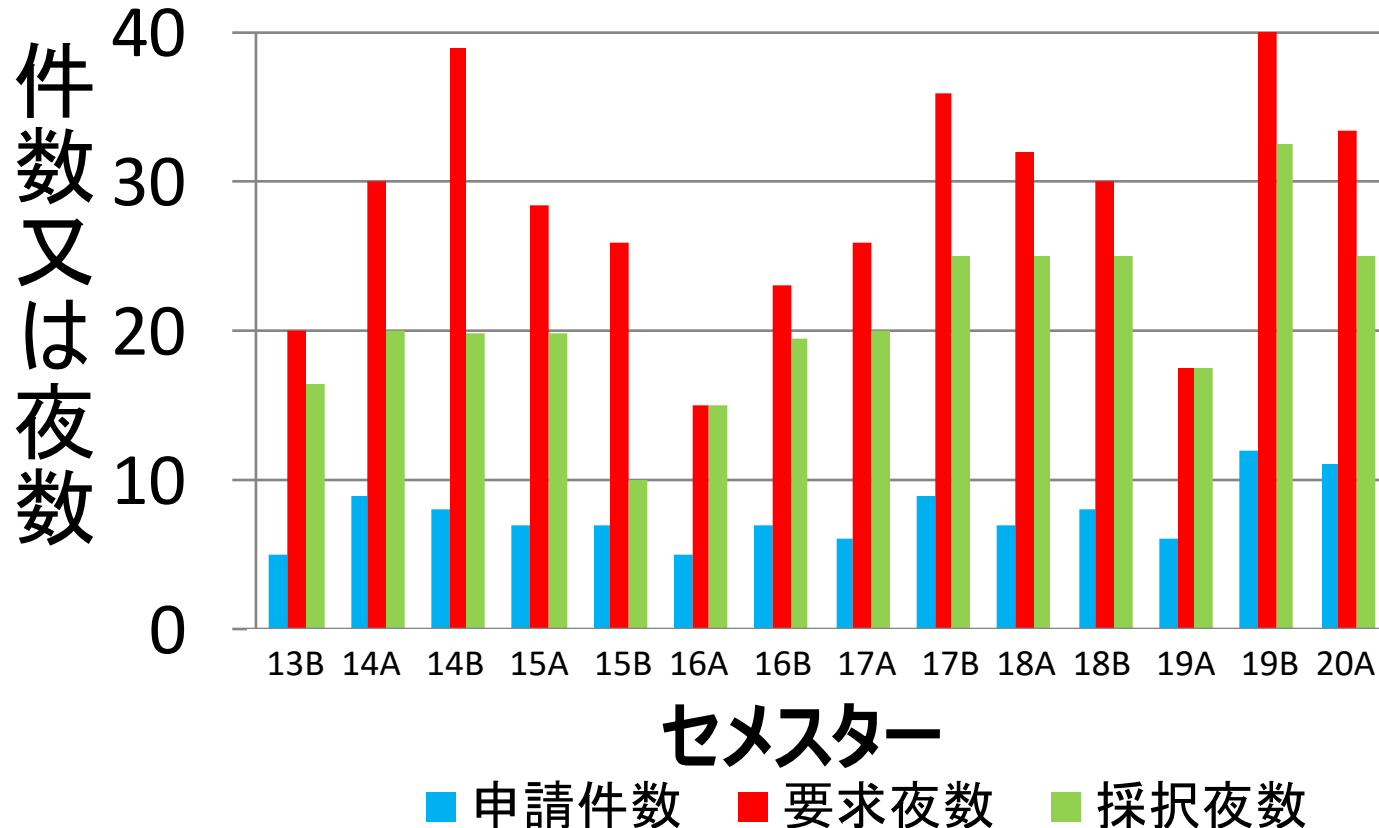
この望遠鏡を用いて共同利用拠点を形成する

拠点の目標

- プロポーザル制に基づく共同利用観測により、独創的な研究成果を上げる
- 研究観測や装置開発を通じ、全国の大学における大学生・大学院学生の教育に貢献する

共同利用観測

- プロポーザル : 年間2回公募
- 割当夜数 : 半年で25夜
- 装置 : MALLS, NIC, WFGS2等
- 審査 : 外部委員を含めた審査委員会



この一年間で行ったこと

1. 共同利用観測の継続

旅費の確保が課題

→ 学内の競争的資金を確保。リモート観測

2. 観測装置の開発

太陽系外惑星専用偏光装置

→ 部品を購入、動作チェック

3. データアーカイブ

SMOKAに登録

→ 2019年12月にNICのデータを公開

4. 共同ユーザーズミーティングの開催

→ 本UM

共同利用拠点の中間評価

A. 拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティにも貢献していると判断される。

共同利用観測のプロポーザルについて、**地方国立大学からの応募や私立大学からの応募が増えつつある**など、利用者が多様になるとともに、成果として発表された論文数が増加傾向にあるなど、着実に拠点機能が充実している。

今後は、**特色ある研究成果の創出**にも留意しつつ、拠点活動の一層の充実に取り組むことが期待される。

評価の目安： S:20%, A:50%, B&C: 30%

Stars and Galaxies

- 2018年12月に査読誌を創刊
- 年一回発行
- 西はりま天文台ホームページとJ-STAGEで公開。
- 日本語(アブストラクトと図表のキャプションは英語)または英語
- 掲載料無料、閲覧無料

- 兵庫県立大学: 8本
- 国立天文台、茨城大学、京都大学、東京大学、法政大学、放送大学: 各1本

また、雷

- 2020年7月21日午後4時に、天文台内に落雷
- なゆた望遠鏡、電話、エレベーター等が故障

	サーボモーター	エンコーダー	ドライバー
方位軸		×	×
高度軸		×	×
副鏡焦点軸			×

- 天文台ではサージトランスとSPD(アレスタ)を設置。電源部と通信線は二重に保護されていた
- 原因は不明
- 仮復旧は来月と思われる